

2017 年度 学術交流支援資金報告書 海外の大学等との共同学術活動支援

研究代表者

秋山 美紀

大学院プロジェクト名： 「プラットフォームとビジネス」

研究プロジェクト名： 「情報プラットフォームと経営に関するグローバル人材育成のための国際共同プロジェクト」

研究プロジェクト組織：

代表者 秋山 美紀	環境情報学部 兼 政策・メディア研究科 教授
國領 二郎	総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 教授
飯盛 義徳	総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 教授
琴坂 将広	総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 准教授

米国側組織：

Raymond A. Mason School of Business, College of William and Mary

担当教員

Chon Abraham, PhD. Associate Professor, Operational Information Systems

Lou Rossiter, PhD. Professor, Director Health Sector Program

実施したプロジェクトの概要

本プロジェクトは、欧米諸国のビジネススクールと慶應義塾大学 SFC の大学院生・教員が相互交流を図ることで（１）情報プラットフォームに関する国際共同研究の基盤を構築すること、（２）情報プラットフォームの構築や運用に関する各種課題と解決方法について理解を深めグローバルに通用する実践力を身につけるための教育プログラムを開発すること、の２点を目指すものであった。

2017 年度は、短期留学プログラムを活用し、慶應義塾と姉妹大学締結校である米国 William and Mary 大学のビジネススクール大学院生と教職員を受け入れ、共同で大学院プロジェクトを実施するなどの相互交流を行った。さらに、今後の国際共同研究および大学院教育連携を中長期的にどのように推進していくか具体的な工程を定めた。

成果の報告

1) William and Mary 大学 Business School との教育・研究連携プログラムの構築

情報プラットフォームと経営人材育成のための教育交流プログラムの内容を検討するために、2017 年度 6～12 月まで、両大学院の教員が隔週でスカイプミーティングを実施し、教育達成目標や研修プログラムの内容を具体的に議論した。大学院生の交流については、2017 年 12 月の初回開催を契機に、2018 年度から継続的に短期留学生交流プログラムを立ち上げることを実施するプランを作成した。さらに、教員間の共同研究プロジェクトとして、健康医療情報プラットフォームに関する日米共同研究を実施することが具体的に決まり、競争的研究資金の獲得に向けて動き出した。

2) 短期留学生交流プログラムの実施

2017 年 12 月、上記大学院で主にヘルスケアのプラットフォームとそのマネジメントに重点を置いて学んでいる修士課程の学生 7 名と引率教職員 2 名が来日し、SFC キャンパスに滞在し、大学院プロジェクト「プラットフォームとビジネス」をはじめとする授業に参加し、SFC 大学院生らと交流し知見を交換した。このほか SFC キャンパスにおいては、SIV にてベンチャーインキュベーションに関する意見交換を実施し、健育会の湘南藤沢慶育病院とも学術交流を行った。さらに、信濃町キャンパスや慶應義塾大学病院も訪問し、医療情報プラットフォームやヘルスポリシーに関する知見を深めた。

■来日メンバー

教職員

- Chon Abraham, Associate Professor, Raymond A. Mason School of Business, College of William and Mary
- Michele Renee Mitchell Moffit, Associate Director, MBA Program, Raymond A. Mason School of Business, College of William and Mary

MBA 学生 (2nd year MBA student >

- Megan Corcoran : Megan have worked at Arkema Inc., a global chemical manufacturer and supplier. She interned with Universal Health Services this summer at the Friend's Behavioral Health Hospital in Philadelphia with their hospital administration.
- Allison Lenthall : Allison is an experienced leader and relationship manager, having worked in marketing and communications, both internationally and domestically
- Crystal Brigantti : Crystal is an optometry doctor and have practiced in Fort Knox and

Fort Eustis, Virginia and served as Chief of Optometry Services at Schofield Barrack, HI.

- Sasha Maliniak: Sasha have worked in political consulting and higher education. Upon graduating from William and Mary as an undergraduate, she began working at a public opinion and market research firm in San Diego, California.
- Melissa Horne : Melissa received her bachelors from the University of Connecticut in 2014. Then she spent one year as a management trainee and another working in non-profit.
- Brandon Britt : Brandon is a 2nd year MBA student from Chesapeake, Virginia. He plans to pursue a career in Consulting, specifically in the Healthcare space.
- Abhiram Singamsetti: Abhiram is the President of Entrepreneurship and Innovation Club at the College of William and Mary

■米国 MBA 学生滞在中スケジュール

12月2日(土) 入国、都内にて宿泊

12月4日(月)

8:30-9:30 SFC へ移動

10:00-12:00 大学院プロジェクト「プラットフォームとビジネス」にて
大学院生インタラクティブセッション*

*インタラクティブセッション概要

SFC からは、博士課程 1 名と修士課程 1 名が、それぞれ個人で取り組んでいる研究を発表し、質疑応答を行った。米国の大学院生は、病院の経営改善に関して、3 グループが、それぞれの成果を発表した。

● 参加者

SFC 側：教員 4 名（國領二郎、飯盛義徳、琴坂将広、秋山美紀）と、修士課程（8 名）・博士課程学生（2 名）

William and Mary 側：教職員 2 名、MBA 学生 7 名

● SFC 大学院生の研究発表

1. 小野塚 亮（後期博士課程）

“Redefiners of Discipline Borders : A Bayesian Detection Method for Conceptual Changes in Scientific Knowledge”

2. 王 念雨（修士課程 1 年）

“Emergence and Development of Born Global Enterprises”

● 米国学生の研究発表概要

- G1) Crystal Brigantti, Allison Lenthall, and Abhiram Singamsetti
 - Surgical pre-assessment center is a concierge service concept for the benefit of surgical patients. This project is to evaluate the patient experience in days leading up to and the day of a surgery. Ensuring that patients and staff are prepared for surgery ensures that the surgery starts on time.
- G2) Megan Corcoran, and Sasha Maliniak
 - The Inpatient Nursing Units would like a "staffing tool" to assist with "flexing" their resources to meet projected patient volumes. Objectives: 1) Create updated (standard) staffing matrix grid for each unit using updated benchmarks (HPPD) 2) Create staffing tool that can be filled out every 4 hours to assess productivity in "real-time".
- G3) Brandon Britt, and Melissa Horne
 - Research and propose innovative methods to recruiting a broader workforce. We currently use basic recruiting techniques powered by the web and some social media to attract and recruit talent. What are other, more forward-thinking companies doing to attract and retain top talent? How could Riverside incorporate these concepts into existing systems and structures?

13:00-14:30	國領二郎研究会に参加
14:45-16:00	キャンパス見学
17:30-20:00	歓迎会@タブリエ

12月5日(火) 午前 湘南慶育病院見学
午後 SIVにて、ベンチャーインキュベーションに関する意見交換

12月6日(水) 午前 SFC 授業へ参加
Option1「ベンチャー経営論 (GIGA 科目)」 (担当: 國領二郎、梅嶋政樹)
“Softbank’s investment decision and M&A”

Guest lecturers

Mr. Akihiko Nakano, the head of Energy Company, Softbank Corporation

Mr. John Choe, CEO & Founder, Encored, Inc.

Option2「多国籍経営論（GIGA 科目）」（担当：琴坂正広）でのケースメソッド授業

教材ケース 1 “United Cereal: Lora Brill’s Eurobrand Challenge”

教材ケース 2 “Kent Chemical: Organizing for International Growth”

12月7日（木） 午前 慶應義塾大学病院見学

午後 東芝ほか企業訪問

12月8日（金） 出国



日米大学院生のインタラクティブセッションの様子



先方大学からのお礼の品を広げる園領教授と琴坂准教授



SIVにて廣川克也マネージャーから、ベンチャーインキュベーション・プラットフォームの説明を受ける米大学院生たち



日米学生の交流（タブリエでの歓迎会にて）



医学部宮田裕章教授と医療情報プラットフォーム戦略に関する情報交換



湘南慶育病院の山口太一事務部長、松本純夫院長から、地域病院の役割や大学との連携について学ぶ



慶應義塾大学病院の情報システムに関するレクチャー



企業訪問(東芝メディカル)にて

成果のまとめ

教育および研究の両側面で 2017 年度に遂行したプログラムによって、今後の新たなグローバルなネットワーク形成に向けた礎がつくられたと確信している。特に今回は、米国の William and Mary 大学のビジネススクール（Raymond A. Mason School of Business）の経営情報システム専攻の教員や学生と、SFC 政策・メディア研究科で経営学を学ぶ学生が互いの研究成果を発表しあい交流を深めた実績をつくったことにより、当該分野の教育交流拠点の形成に向けて大きく一步を踏み出したと考える。今回は、MBA の中でも、健康・医療の経営情報プラットフォームに特に関心があるグループが訪日したため、SFC の隣地にオープンしたばかりの湘南慶育病院、ベンチャーインキュベーション施設、信濃町の慶應病院などの協力も得て、米国 MBA にとっても実りある滞在型研修となった。今後は SFC 研究所の健康情報プラットフォームラボ、プラットフォームデザインラボといった関連するラボラトリや研究コンソーシアムとの連携も視野に交流プログラムを発展させたい。

William and Mary 大学 Raymond A. Mason School of Business とは、今後も様々な共同研究および教育交流を実施していく予定であり、先方の担当教職員は、SFC の修士課程、博士課程の学生を歓迎して受け入れると述べている。次年度以降は SFC 学生を短期留学生として送り出すとともに、両校の交流を継続していくことで、グローバル人材育成やキャンパスグローバル化に貢献していきたいと考えている。

当該テーマである「プラットフォーム」には、多様な主体（人、モノ、コト）の相互作用つまりコミュニケーションを促すとともに、それらのかかわり合いのプロセス（プロトコルやルール）を規定するという側面がある。狭義の情報システム的な視点からは、インターネットを前提に相互運用性や情報セキュリティ、さらに社会科学的な視点からは、運営主体、参加主体の相互信頼、参加するインセンティブといった要素を検討し、それら様々な変数を組み入れた設計と運用を行うことで、マルチステークホルダーが参加し、活発に相互作用を起こし、社会の問題解決という果実を生み出すことになる。そのプラットフォーム研究において、SFC はアジアをリードした顕著な成果を生み出しており、今後はさらに、社会実装と継続運用に重きを置いたプラットフォーム研究および教育を、国際的に連携して推進することで、政策・メディア研究科の大学院生の研究力と実践力の向上、さらには慶應義塾大学のプラットフォーム研究のプレゼンスが向上につながっていくと考える。

最後に、学術交流支援資金の採択ならびに各方面でご協力を賜りました関係者の皆様に、謹んで感謝の意を表します。

以上